

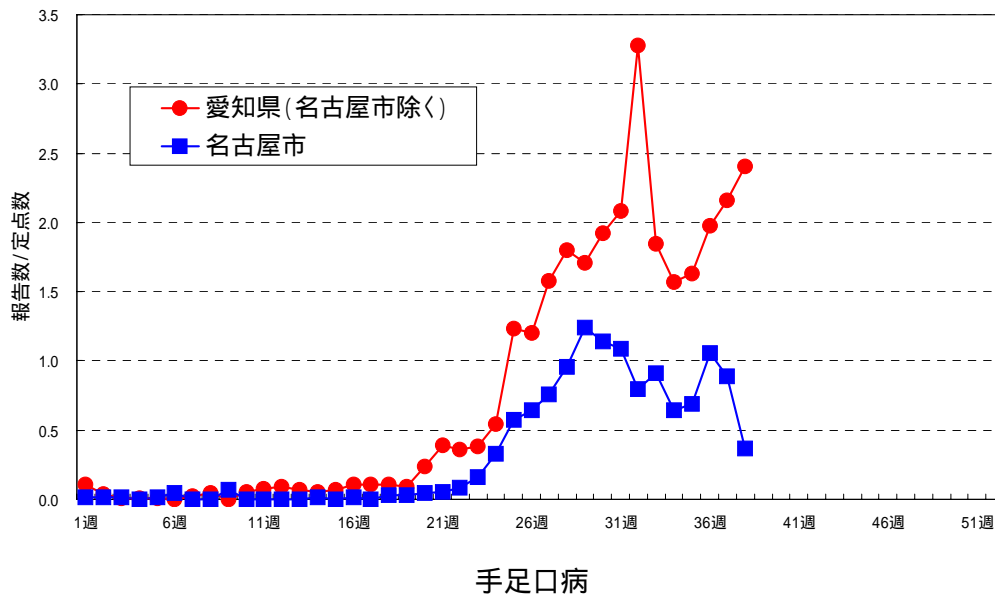
愛知県感染症情報

平成 12 年第 38 週（9 月第 3 週）

（コメント）

手足口病の報告数は、県全体では横ばい状態ですが、名古屋市を除く愛知県では増加しています。

3 類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）が依然流行しています。施設内集団感染の例も見られていますので注意してください。予防対策として、食前、用便後には、石鹸等で良く手を洗い、加熱調理食品は、中まで火が通るよう十分加熱するなどの注意をしてください。また、健康状態に異常が生じた場合には、早めに医療機関に受診し、最寄りの保健所等に相談してください。



（先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
 - ・ ヘルペス性口内炎 1 歳女
（一宮市 後藤小児科医院）
 - ・ 5 人は同じ職場に勤務しています。（流行性角結膜炎）
（一宮市 いとう眼科）
 - ・ 病原性大腸菌感染者（O-18 及びカンピロバクターの混合感染 6 歳男、O-86 a が 2 名（35 歳女、5 歳男）、O-1 が 2 名（1 歳男、9 歳女）、O-1 及び M R S A の混合感染 17 歳女、O-25 が 25 歳男）
涼風が立ち始めてから再び病原性大腸菌感染症が増えてきました。
突発性発疹症や伝染性紅斑も小流行があります。
（尾西市 城後小児科）

- ・ ヘルペス歯肉口内炎目立ちます。サルモネラ O-7 群
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ カンピロバクター (+) 28 歳女
(師勝町 師勝クリニック)
- 尾張東部地区
 - ・ 手足口病落ち着いてきました。
流行性耳下腺炎散発、その他目立った感染症ありませんでした。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
 - ・ 感染症あまりありません。
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ カンピロバクター腸炎 2 歳女
病原性大腸菌 O-1 VT1・VT2 (-) 1 歳女
気管支喘息発作が多くなりました。
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- 西三河地区
 - ・ 2 歳男病原性大腸菌
嘔吐を伴うかぜ?が増加している。
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 手足口病、ムンプスの小流行
(碧南市 永井小児クリニック)
 - ・ 百日咳 1 名
(知立市 宮谷クリニック)
 - ・ 特に感染症の流行はありません。
喘息発作が多くなりました。
(西尾市 やすい小児科)
- 東三河地区
 - ・ カンピロバクター 2 名 (1 歳男、1 歳女)
サルモネラ O-7 1 歳女
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
 - ・ EB ウイルス感染症 3 歳男 入院
(豊橋市 富田小児科)
 - ・ マイコプラズマ肺炎 9 歳
(豊川市 医療法人宝美会総合青山病院)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 7 名

- ・ 岡崎保健所から報告の 26 歳男 9/11 発病、9/14 初診、9/16 診定。
菌型は、O-157 VT1・VT2 (+)
- ・ 瀬戸保健所から報告の 27 歳男 9/9 発病、9/10 初診、9/15 診定。
菌型は、O-157 VT1・VT2 (+)
- ・ 安城保健所から報告の 2 歳女 9/3 発病、9/5 初診、9/11 診定。菌
型は、O-128
- ・ 安城保健所から報告の 5 歳男 (9/5 発病、9/19 初診、9/21 診定) 、
6 歳男 (9/18 発病、9/18 初診、9/22 診定) 、 3 歳女 (9/18 初診、
9/22 診定) 、 4 歳男 (9/16 発病、9/18 初診、9/22 診定) 。菌型
は、いずれも O-26 VT1 (+)

● 細菌性赤痢患者 2 名

- ・ 岡崎保健所から報告の 56 歳男 9/16 発病、9/18 初診、9/20 診定。
菌型は、ゾンネ 相。モロッコへ渡航歴有り。
- ・ 師勝保健所から報告の 20 歳男 9/9 発病、9/19 初診、9/22 診定。
菌型は、フレキシネル 4 。インドへ渡航歴有り。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません

第 36 週 (9 月 4 日 ~ 9 月 10 日) の 4 類感染症の全国状況

咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病の定点当たり患者報告数が、例年に比べてかなり多くなっている。手足口病の定点当たり報告数が多いのは、長野県、大分県、島根県で、定点当たり報告数はそれぞれ 6.1 、 4.4 、 4.3 となっている。流行性角結膜炎は茨城県で定点当たり報告数 6.6 、長崎県で 5.9 、福岡県で 5.1 と多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

平成12年9月26日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

集中豪雨で大変な毎日でした。帰宅できなくて友人の下宿に転がり込んだ学生もいたようです。先生方の地区ではいかがでしたでしょうか。いつも貴重な情報を有難うございます。9月前半のまとめをお送りします。

1．名古屋市内：手足口病が相変わらず散発中で脳炎、髄膜炎の合併例も発生していますがが大流行というほどの発生ではないようです。ムンプス髄膜炎も目立ちますが夏カゼ髄膜炎のほうが多いようです（城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災病院伊藤先生、大同病院水野先生）。前報同様、外国からの重症の手足口病などの輸入報告も届いていません。鼻咽頭炎（第二日赤岩佐先生）、感染性胃腸炎（第一日赤有吉先生；細菌性腸炎の入院例目立つ、千種区今枝先生、三菱・岩間先生；病原性大腸菌O1）、下痢はひどくないが腹痛著明な例（大同・水野先生）、仮性ク룹とマイコプラズマ肺炎の入院例が目立つ（第一日赤有吉先生、大同・水野先生）、気管支肺炎（三菱・岩間先生）、喘息と喘息性気管支炎（三菱・岩間先生、城北・渡辺先生；喘息の初発患者が増加、国立・伊藤先生；水害の影響？喘息の入院あり、インフルエンザ桿菌による化膿性髄膜炎（第一日赤有吉先生）、水痘で熱性痙攣で要入院例1例（国立病院伊藤先生）、伝染性紅斑（千種区今枝先生）、伝染性膿痂疹の中でブ菌性火傷様皮膚症候群合併例が今年は多く入院例もあり（大同・水野先生）などのお手紙をいただきました。国立病院の麻疹は途切れたようです（伊藤先生）。

2．尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病が再度多発、突発疹が散発中、岩倉市永吉先生からは溶連菌感染症とヘルパンギーナが散発中、常滑市民病院上田先生からはA群溶連菌感染症、手足口病、ムンプス、伝染性膿痂疹、水痘が多く麻疹とサルモネラ、大腸菌O157：H7各1例あり、半田市立病院中島先生からは麻疹の入院1例ありとのお手紙でした。

3．三河地区：知立市近藤先生からはムンプス1例、手足口病が数例、ヘルパンギーナや溶連菌感染症が散発中、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎と手足口病がたまにみられ、碧南市永井先生からはムンプスと手足口病が散発、豊橋市宮澤先生からはここにきて流行の手足口病は口内疹が強く、髄膜炎併発例ありとのお手紙でした。有難うございました。

2 0 0 0 年 8 月 1 1 日号 (7 5 巻 3 2 号)

腸チフスワクチン：W H O の勧告。腸チフスの世界年間推定発生数は旧ソ連アジア諸国や東南アジア、アフリカ、南米などで 1 千 6 0 0 万 (6 0 万死亡) 。多数の無症状感染者が感染源であり、多剤耐性菌増加が問題となっている。ハイリスク地区住民や旅行者を対象としたワクチンに関しては従来の腸チフスワクチンには副作用と有効性に問題があったが、近年有効で副作用のない二種類のワクチン開発が進み注目を集めている：チフス菌 V i 抗原を精製した不活化ワクチン、V i ワクチン (注射 1 回。3 年毎に追加接種。2 歳以下では無効。) 、弱毒株 T y 2 1 a による生ワクチン (経口初回 3 回、3 年毎追加。旅行者は毎年。3 歳以下小児の接種試験は接種試験報告なし) 共に安全性と有効性が認められている。W H O としては流行地区の実情に応じて 5 歳 ~ 青年層の地域住民 (乳幼児の腸チフスはそれほど重症化しない) と腸チフス非流行地区からの旅行者を対象に接種が考慮されることを勧告している。

インフルエンザ：2 0 0 0 年 8 月。オ - ストラリア ; シドニ - では A 型優勢。

8 月 4 日 - 1 0 日届出。コレラ：ガ - ナ、ウガンダ、シンガポ - ル。ペスト：米合衆国

2 0 0 0 年 8 月 1 8 日号 (7 5 巻 3 3 号)

ラッサ熱：オランダ。輸入例。4 8 歳。男性。外科医。7 月 1 1 日、西アフリカ・シェラレオネで発病しマラリアとして加療、1 4 日帰国。1 5 日ライデン大学病院入院し 2 0 日にラッサ熱が疑われてリバビリソ治療開始、2 2 日確定診断。2 5 日死亡。旅行中の接触者からは発病者なし。当例が 2 0 0 0 年欧州への輸入 4 例目で全員死亡。

麻疹：アイルランド。7 月 2 9 日時点で 2 0 0 0 年 1 月以降 1,376 例発病 (死亡 2 例) 。ダブリン市北部。定期接種強化などの対応が実施されている。

H I V / A I D S : 西太平洋地区。9 9 年末の報告集計。同地区で推定感染者 876,200 名、患者 15,490 例。性感染多発地区はカンボジア (成人人口の H I V 陽性者率 3.3%) とパプアニュー - ギニア (同 0.6%) 、薬剤常用と性感染で増加中がベトナム (同 0.24%) と中国 (率は < 0.1% だが数が多い) 、減少しているのがオ - ストラリアとニュージーランド (発病阻止用抗ウイルス剤普及と男性同性愛者間の感染減少、横這いが薬剤常用主体のマレ - シア (同 0.4%)) となっている。A I D S 患者数で目立つのはカンボジア (1 万) 、ベトナム (3,700) マレ - シア (900) 。中国では薬剤常用者で急増、性感染も増えているが詳細は不明、ベトナムでは地域により (特に南部のホ - チ - ミン市) で性感染急増、女性性産業従事者の 1 9 % が陽性で妊婦健診で発見される陽性者も増加中。

昆虫対策：ガイドラインが発表された。資料集一覧表掲示。

インフルエンザ：2 0 0 0 年 7 - 8 月。アルゼンチン、チリ。A (H 1 N 1) 。香港 A (H 3 N 2) 。メキシコ。A 型。

8 月 4 日 - 1 0 日届出。コレラ：香港 (輸入例) 。